

■鈴木梅太郎 農芸化学者。米糠から抗脚気成分の抽出に成功(ビタミンB1)し、合成酒の特許を取得・市販など、実践的活動。

すずきうめたろう

佐賀の乱・・・1874＝ 静岡県榛原郡堀野新田村で、鈴木庄蔵の次男に生まれる。

琉球処分・・・1879＝ 5歳：鈴木利七に学問を習い、

・・・・・・・1880＝ 6歳：地頭方学校に入学、

明治14年政変1881＝ 7歳：

岩倉具視没・1883＝ 9歳：

帝国大学始・1886＝12歳：卒業し、

国民之友始・1887＝13歳：開講した県公認の東遠義塾に入る。

初の対等条約1888＝14歳：単身徒歩で上京し、神田の日本英学館に入学。農林学校予備校を経て、

帝国憲法発布1889＝15歳：東京農林学校に入学。お雇外国人教師レーブに学び、

帝国議会始・1890＝16歳：東京帝国大学農科大学となった後、

大本教・・・1892＝18歳：

郡司千島探検1893＝19歳：農科大学予科を卒業、学生総代として誓約書を朗読。

日清戦争始・1894＝20歳：遠江学生奨学会より賞品、

白馬会・・・1896＝22歳： 農科大学農芸化学科を卒業。東大全卒業生代表して答辞を読む。大学院に入って植物生理学を専攻し、

八幡製鉄始・1897＝23歳： 政府が対策費支出に追い込まれた桑の萎縮病が代謝異常であることを解明。

ピアノ国産化・1900＝26歳： 同大学助教授。

田中正造直訴1901＝27歳： 農学博士となり、結婚後、文部省留学生としてヨーロッパに渡り、スイス・ドイツに遊学。

とくにベルリンのE. フィッシャーについて、タンパク質の研究にあたって、

日露戦争終・1905＝31歳：

満鉄発足・・・1906＝32歳： 帰国し、盛岡高等農林学校教授を経て、

韓国反日暴動1907＝33歳： 東京帝国大学教授となる。論争の渦中にあった脚気の治療に有効な栄養成分を研究し、

伊藤博文暗殺1909＝35歳： 東京肥料分析講習所長を兼務。

韓国併合・・・1910＝36歳： *米ぬかから抗脚気の有効成分の抽出に成功、オリザニン(ビタミンB1)と命名し、東京化学会で発表、

大逆事件判決1911＝37歳： 東京化学会誌に報告論文、

明治天皇没・1912＝38歳： *蛋白質の研究に対し、東京化学会より桜井賞。三共から“オリザニン液”が発売される。

大正政変・・・1913＝39歳： この年、東京肥料分析講習所が私立東京農業大学分析講習部(のち農芸化学部)になる。

21ヶ条要求・1915＝41歳： サルバルサン、サルチル酸の工業的製造に成功。

ロシア革命・1917＝43歳： 自らも創立委員だった理化学研究所設立とともに、同研究委員となり、盛岡高等農林学校教授を辞任、

栄養化学および合成酒、サリチル酸、乳酸などの研究・製造に従事。

ベルサイ条約・1919＝45歳： 香川県藍同業組合の招聘で、小松島に藍工場を建設。

原敬首相暗殺1921＝47歳： *合成酒の特許を取得して、市販(いわゆる“理研酒”)したのをはじめ、

さまざまな産物の資源化について、基礎研究から応用製造まで手がける。

護憲三派圧勝1924＝50歳： “副栄養素の研究”により帝国学士院賞。日本農芸化学会を設立し、会長。

治安維持法・1925＝51歳： 帝国学士院会員。東京農業大学建設資金の一部を寄附。

円本時代始・1926＝52歳： オリザニンの発見に対し、帝国発明協会から恩賜記念賞及び大賞。

金融恐慌・・・1927＝53歳： 母校地頭方小学校に寄附。東京帝国大学農学部長。“ビタミン”について御進講。

共産党事件・1928＝54歳： 農学部長辞任。合成酒の発明に対し、帝国発明協会から特等賞牌。

世界恐慌・・・1929＝55歳： 大日本農会より名誉賞。東京帝国大学農学部に実験室一棟寄附し、紺綬褒章。

海軍軍縮条約1930＝56歳： 発明家の一人として、宮中賜餐の榮譽。

満州事変・・・1931＝57歳： 御講書始で御進講。

五一五事件・1932＝58歳： ドイツ自然科学アカデミー会員。

国際連盟脱退1933＝59歳： 東京帝国大学に奨学金寄附し、紺綬褒章。

帝人疑獄事件1934＝60歳： 東京帝国大学教授を退官。

日中戦争始・1937＝63歳： パリ万国博覧会にビタミンB1の結晶を出品し、名誉賞。満州国大陸科学院院長。

健保+総動員 1938＝64歳： 理研酒工業株式会社を創設するなど、

日米開戦・・・1941＝67歳：

戦時体制下の国民生活に益し、国策に沿った研究を続けて、

創価学会検挙1943＝69歳： 文化勲章。腸閉塞症で、没した。